

当院で加療下骨盤臓器脱の症例における治療法の選択、また、術式別の再発率、術前後の身体的 QOL 評価、下部尿路症状・排便症状の評価、術後経過・合併症などについての後方視的検討

2011 年 1 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日までに骨盤臓器脱に対して治療を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「当院で加療した骨盤臓器脱の症例における治療法の選択、また、術式別の再発率、術前後の身体的 QOL 評価、下部尿路症状・排便症状の評価、術後経過・合併症などについての後方視的検討」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2011 年 1 月 1 日より 2021 年 3 月 31 日までに日本医科大学付属病院女性診療科・産科にて、骨盤臓器脱のために治療を受けられた患者さんの治療成績を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：当院で加療した骨盤臓器脱の症例における治療法の選択、また、術式別の再発率、術前後の身体的 QOL 評価、下部尿路症状・排便症状の評価、術後経過・合併症などについての後方視的検討

研究期間：研究実施許可日～2024 年 3 月 31 日

研究責任者：日本医科大学付属病院 女性診療科・産科 可世木 華子

(2) 研究の意義、目的について

少子高齢化や女性の社会進出に伴い、高齢女性の社会や家庭内での重要性は高まっており、今後の高齢化が進むにつれて骨盤臓器脱の患者は増えて加療対象は増加の一途を辿ると思われます。当院では以前より骨盤臓器脱の手術で国内でも先進的な治療を行っています。本研究は当院で過去に行った約 700 例の骨盤臓器脱手術の症例に対して、治療成績を明らかにすることを目的といたします。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2011 年 1 月 1 日～ 2021 年 3 月 31 日までに日本医科大学付属病院女性診療科・産科にて、骨盤臓器脱に対して治療を受けられた患者さんの合併症や術後成績などを解析し、治療成績についての検討を行います。

この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：血液、検査を行っていれば画像検査、等

情報：年齢、性別、経産回数、骨盤臓器脱の重症度、治療法、等

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省）」および「同・倫理指針ガイドダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 女性診療科・産科 助教 可世木 華子
〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5
電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：25749
メールアドレス：hanakow@nms.ac.jp